[課程―２]

審査の結果の要旨

氏名　　清松　知充

本研究では、下部進行直腸癌において局所再発の制御を目的に、近年広く行われている術前放射線療法の安全性、特に長期低線量術前照射の安全性を多門照射の有効性、および高齢者における安全性の二面から検討を行った結果、下記の結果を得ている。
得ている。

１．　照射方法として、従来の 2 門照射に代えて 4 門照射を用いることで、その腫瘍学的な制御効果を損ねることなく、術後合併症の総発生率が有意に減少し、さらに再手術を要するような重篤な合併症の発生においても有意に減少することが示された。特に近年ますますその幅を広げている括約筋温存術において、重要な合併症である吻合部縫合不全に関しても、その発生率を有意に低下させることが明らかになった。直腸癌術前の長期低線量照射において 4 門照射は 2 門照射よりすぐれた照射方法であることが示された。

２．　70 歳以上の高齢者においても、術前照射は同等の効果をもって、かつ同等の安全性をもって施行しうる療法であることが示された。年齢や合併症の問題への懸念から集学的治療から排除されがちな高齢者に対しても、術前照射療法に関してその適応を制限する必要がないことが示された。

このように、近年広く普及し始めている下部進行直腸癌に対する長期低線量術前照射法に関連して、高齢者におけるその安全性を示すとともに、より合併症を少なくする方法としての 4 門照射法の有用性を示すことができた。今後の展望としての照射方法の個別の設定など、症例に応じたオーダーメイドの治療を考えていくことで、可能な限り目的照射野以外の臓器の被ばく量を低減させることで合併症の減少効果が期待できることを示し、また、ますます需要が増加する高齢者への集学的治療の安全性を示したことで臨床的に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。